

息障院(伝範頼館跡)(東松山市)

岩殿山息障寺とある



源範頼館跡とある



山門が見える





左手の築地塀に沿った空堀は当時の館を取り巻く土塁を伴う構堀の名残だという



参考ホームページ

<http://www.geocities.jp/tsukayan0112/joukan-saitama/minamoto-noriyori-yakata-yosimimati/minamoto-noriyori-yakata-yosimimati.html>



左から

- ・ 重要建造物 地蔵堂一字 室町時代
- ・ 重要文化財 本尊不動明王坐像 県指定
- ・ 史跡 源範頼館跡 県指定

本尊不動明王坐像



インターネットより



















山門から本堂を見る



本堂







鐘楼





境内社/天満宮



地藏堂/室町時代





「三間で、屋根は寄棟造、一軒平行垂木で、縁があり全体として和様を基調とした建築である。大分修復の手が入っているように見受けられるが、木鼻の形など確かに室町期の建築らしい姿に見える。檼束の上に肘木を乗せているのがおもしろい。」 インターネットより









本堂より山門方向を見る



境内にはさまざまな石造物があった







宝篋印塔もある



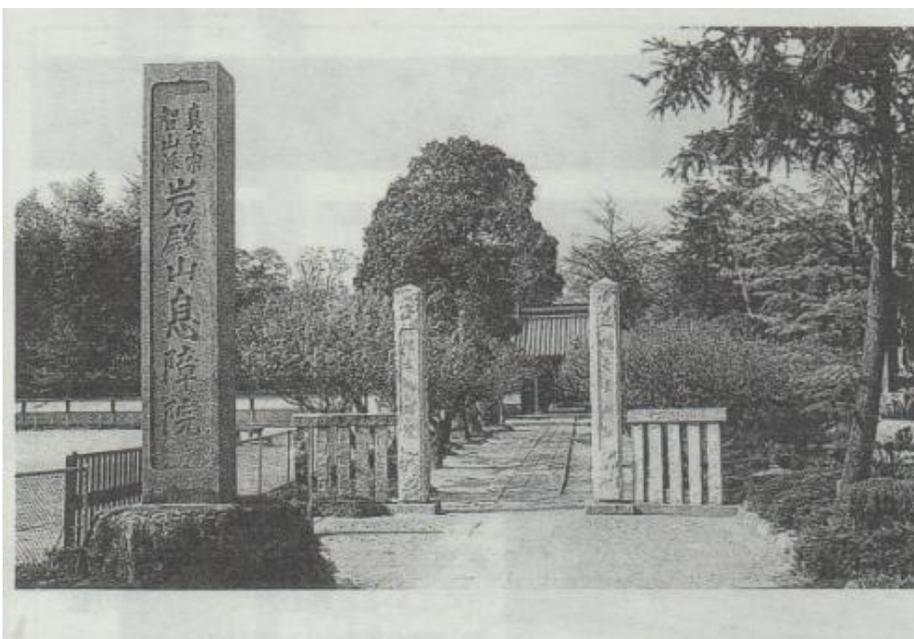












伝源範頼館跡

県指定 旧跡

でんみなもとののりよりやかたあと

吉見町大字御所地内の息障院一帯が、源範頼の居館跡と伝えられている。源範頼は頼朝の弟で、平治の乱後、岩殿山(吉見観音)に逃げのび、そこで成長したと伝えられている。兄頼朝が鎌倉で勢力を得てからこの地を領するようになり、館を中心とするこの地を御所と呼ぶようになったと言われている。その後、範国、為頼、義春、義世は吉見氏と称し、範頼から五代の間この地に住んでいたと言われている。吾妻鏡永仁4年(1295年)の条には、「吉見義世謀逆により由比ヶ浜にて斬首」とあり、これを最後に吉見氏の名は史書に登場しなくなる。現在の息障院がこの地に移ったのは、室町時代の明德年間と伝えられるが、今なおこの寺の周囲には、範頼の館建立時に作られたと言われている堀の一部等が残っている。

参考ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/azusa/saitama/yosimimati.htm>